

揺れる思い

部活動に取り組んできた高校生 中学生の思い

学校生活も3週間目になりました。少しずつ日常が戻ってきていますが、これまでの生活とは異なる部分も多く、生徒達にとってはまだ戸惑いの日々だと思います。私達教職員も、生徒の様子や生活を観察しながら手探りの日々です。

そのような中、放課後の部活動も再開しました。まだ基礎トレーニングの段階で、対人接触練習までには至っていません。今後、感染状況が現在のように落ち着いていれば、接触練習や練習試合、発表会等が解禁されていくと思います。運動部も文化部も、3年生にとって大きな大会は無くなってしまいましたが、多くの生徒達が放課後一生懸命活動しています。その一方で、けじめをつけて新しい目標を決めて、チャレンジする生徒もいます。それぞれが、悩みながら決めた道でもあります。それぞれの選んだ道で、何かを得てほしいと心から願います。

本日、新聞を読んでいましたら、仙台の私立高校に通う3年生女子生徒の部活動に対する思いが特集されていました。少しだけ紹介してみます。

その女子生徒は、競歩の選手として3年間取り組み、2年生の時には、県高校総体を制覇。今年の夏のインターハイ出場を目指し、自室の壁にも「インターハイ出場」と目標を掲げ、頑張っていました。

ところが突然の大会中止を知らされ、心は揺れたようです。監督に引退したいかと聞かれ、「はい」と答えたそうです。「はい」と答えが出るまでは相当悩んだと思います。自室の「インターハイ出場」と書いた紙もそっと捨てたとの事です。しかし、監督はずっと頑張ってきたその生徒に後悔させないような選択をさせるために「考えなさい」と時間を与えたそうです。その後、何日かして学校が再開となり、仲間たちと顔を合わせているうちに気持ちがほぐれます。「この高校に入ったのは、陸上がしたかったから。自分で決めたことだ。タイムは悪くてもいい。本気で自分に勝ちにいて、やりきれたらそれでいい。」と思い直し、部活動が再開されると、その姿を見せ、代替大会に挑む事を決めます。

同じ高校に、他にも仲間に支えられた選手も数多くいて、休校中、携帯電話で自分の練習メニューを紹介しあったそうです。顔は見えなくても同じ時間を共有している事が励みだったとのことです。「みんなと練習できるのもあと数カ月。一日一日を大切にしたい。」みんなそのような思いなのだと思います。

ある中学校のバレーボール部の生徒達の思いも記事になっていました。部活の休止が長引いたことで「受験勉強に集中したい。」「感染が心配。」「試合に勝ちたい気持ちは前みたいに起きない。でも、このまま引退するのは嫌だ。」「つらい日もみんなで乗り越えてきた。その成果を(交流試合で)みせたい。」思いは一人一人違いますよね。

長町中学校で、今、部活動に取り組んでいる生徒達も、様々な思いで放課後の練習を行っていると思います。是非、それぞれが心に秘めている事を顧問の先生方と共有しながら、自分自身を鍛え、励んで下さい。そして、目標を新たに決めて活動から身を引いた生徒もいるでしょう。自分の決めた事に誇りを持って、それぞれが自分の信じる道を切り開いてほしいと心から願います。